

研究課題	独居高齢者における栄養摂取状況および口腔健康状態の実態調査
支援番号	GC04320232
研究事業期間	令和5年4月1日から令和7年3月31日
助成金総額	620,000
研究代表者 (所属機関)	小田島 あゆ子（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野）
研究分担者 (所属機関)	葭原明弘（新潟大学歯学部）、石上和男（新潟医療福祉大学医療経営管理学部）、中村健（新潟大学歯学部）、松田正史（松田内科呼吸器科クリニック）、松田浩一郎（松田歯科クリニック）、武藤由美子（新潟市北地域保健福祉センター）、滝沢杉子（新潟市北区役所健康福祉課高齢介護係）
研究キーワード	口腔健康状態 栄養摂取状況 独居高齢者 実態調査
研究実績 の概要	<p>●研究の成果（具体的内容）</p> <p>本研究は独居高齢者における口腔健康状態と栄養摂取状態およびその関連について明らかにすることを目的とした。</p> <p>新潟市北区南浜地区在住の独居高齢者 361 名に対して調査協力を依頼し、62 名（回収率 17.2%）の同意が得られた。質問紙調査および口腔機能検査を実施し、質問紙の項目は年齢、性別、要介護認定の有無、指輪っかテスト（サルコペニアのリスク）、友愛訪問の利用の有無、身長および体重（BMI）、運動頻度、外出頻度、主観的経済状況、主観的生活状況および主観的健康感とした。また、栄養に関連する項目は食事サービスの利用の有無、買物の状況、食事づくりの頻度、1日の食事回数、食欲、食事の楽しさ、共食頻度、主観的食生活満足度および食品摂取多様性スコア（DVS）とした。口腔機能検査の項目は主観的咀嚼能力、現在歯数、義歯の使用の有無および適合、う蝕や歯周病の有無、舌圧および咬合力とした。</p> <p>独居高齢者のうち、要介護認定を受けている者は 9.7%、サルコペニアのリスクがある者は 32.3%、BMI20 以下（低栄養傾向）の者は 19.4%を占めていた。食生活に関しては問題ない者がほとんどであったが、共食頻度が週 1 回未満の者は 77.4%を占め、DVS は 6.5 ± 2.4 点であった。主観的咀嚼能力では 74.2%が「噛める」と回答したが、現在歯数 19 歯未満は 53.2%、咬合力 500N 未満は 48.4%、舌圧 30kPa 未満は 46.8%を占めていた。これらの結果から、独居高齢者における要介護認定率は 1 割程度であったが、サルコペニアや低栄養のリスクを持つ者は 2～3 割を占め、適切な介入が必要と考えられる。また、食生活や食品摂取多様性に問題がある者は少なかったが、口腔機能が低下している者は約半数を占めていたことから、今後は低栄養予防を目的とした口腔機能の維持・改善の支援の必要性が示された。</p> <p>●意義および重要性、行政や医師会への提言等</p> <p>新潟市では 65 歳以上の高齢者のうち、単独世帯の割合は 3 割を超えている。これまでに独居高齢者を対象とした調査はほとんど行われていなかったが、本研究では独居高齢者を対象とした口腔健康状態と栄養摂取状態およびその関連について明らかにすることができた。また、研究成果を共同研究者（行政および地域医療機関）と共有することができ、独居高齢者を支援していくための基礎資料が得ることができた。</p>